

完了報告書（平成 22 年度）

提出者 芦田裕介

提出年月日 2011 年 5 月 10 日

【プロジェクト名】

戦後日本農村における農業機械化と農業労働組織の変容

—親密圏と公共圏の媒介者に注目して—

Agricultural Mechanization and Transformation of Agricultural Labor Organization in Japanese Rural Society after World War II : Focusing on Agents between Intimate and Public Spheres

【メンバー構成】

研究代表者 芦田裕介

【ねらいと目的】（600 字程度）

本研究の目的は、農家と媒介者である農業機械メーカーの販売員と農協の職員へのインタビュー調査を中心として、媒介者がいかにして農業労働組織と市場の関係を組み換えてきたのかを明らかにし、戦後農村社会の農業労働組織の変容について把握・分析することにある。

第二次大戦後の日本農村は、過疎化や兼業化といった大きな変化を経験し、そのなかで従来の家族関係や社会関係が変化することで、親密圏の再編が進んできた。戦後日本農村におけるこうした変化の主な要因の一つは、農業機械の普及である。農業機械化以前の農業労働は、家族や農村内部の互助などの親密性にもとづく農業労働組織(親密圏)によって担われていたが、機械化とともに市場原理が導入されることで、農業労働は市場化(公共圏と接続)されていった。

従来の多くの農村研究では、農業機械化によって農家内の性別役割分業や互助組織の解体を説明してきた。しかし、これらの研究では、農業機械が農家に導入され定着していく過程、すなわち親密圏と公共圏が関係を結ぶ過程が不明瞭であった。

具体的には、岡山県の農村における農業機械の普及をみていくことで、この過程を明らかにする。この場合、媒介者とは、農家と接して機械の販売を行う農業機械メーカーの販売員と農協の職員である。この媒介者こそ、農家とメーカーの間に入って相互の論理を調整し、機械の整備・修理や農業技術の伝達を行って機械の普及を促進するという、極めて重要な役割を果たしてきた。

この研究は大きな意味では、戦後日本農村における親密圏と公共圏の変容の重要な一側面を明らかにするものである。

【活動の記録】

2010 年

8 月 20 日～24 日 岡山県津山市において農村社会における親密圏の変容についての農家聞き取り調査

11 月 2～8 日 津山市において農村社会における農業労働組織の変容についての農家聞き取り調査

11 月 24～28 日 津山市において農業労働組織についての資料収集・インタビュー調査

12 月 18～19 日 津山市立図書館において農村社会の農業労働組織の変容に関する資料収集

12 月 22～24 日 津山市、勝田郡勝央町において農村社会の親密圏の変容に関するインタビュー調査

【成果の概要】 (800 字程度)

農業を存続していけるような農業労働組織のあり方を模索することは、将来の日本の農業さらには農村社会の展望を考えていくための一つの重要な課題であり、本研究はこの課題を考えるための新たな視座を提供する試みとして位置づけられる。

本稿では、丹念なフィールドワークに基づき調査地におけるの農業機械化と農業労働組織の変容を把握し、それを従来の研究とは異なる「媒介者」という存在に注目して分析した。分析の結果は、以下のようにまとめられる。

農業機械化の過程で、農家にとって農作業に農業機械が不可欠なモノとなることは、販売員の存在も不可欠になることを意味した。販売員は、農家のニーズを汲み取って農業機械の普及を推進したことにより、従来の農業労働組織の変容を促進した。その一方で、販売員は機械を用いた農家の農作業を支えてきた存在であった。とりわけ高齢化の進行や後継者不足といった農業の存続が厳しい状況になるほど、農業生産を維持していくために販売員のもつ知識やスキルの重要性は高まる。また、販売員が農家のニーズを身近で的確に汲み取れる存在であることは、たとえば、農業機械メーカーが、高齢者の扱い機械や資本力に乏しい農家に向けた低コストの機械の開発・普及などが進める上では重要な意味を持っている。

本研究で得られた知見は、従来の研究では見逃されてきた、日本の農村社会における親密圏と公共圏の変容の重要な一側面を明らかにできたといえる。本稿で注目した販売員のように、農村社会において市場と親密圏をつなぐ媒介者の存在に目を向け、その可能性を積極的に評価し、外部の市場との関係のなかで農業及び農村社会を支えていく仕組みを考えていくことが、今後の農村社会の研究には必要だと考えられる。

【通信欄】

(研究代表者記入)

プロジェクト	■次世代 □次世代ユニット □男女共同参画に資する調査研究			
経費	予算額	250(千円)	実績額	250(千円)



現在の岡山県津山市における農作業風景 1



現在の岡山県津山市における農作業風景 2